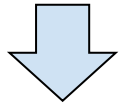


## 検討事項① 「教員の活用について」

### 【第2回検討会内での議論より】

- ・働き方改革の観点から、教員が教員の身分のまま時間外に部活動に携わることは困難
  - ・部活動を担いたい教員もいることから、その活用方法を検討すべき
- ⇒ 兼業・兼職制度を利用した、教員外の身分（部活動指導員）で携われる仕組みを構築
- ・不足する部活動指導員の確保
  - ・生徒指導の要素もある部活動にふさわしい人材の確保
  - ・平日、休日に関わらず、一貫した指導が可能



一方・・・

- ・時間外勤務数を基準に、兼業・兼職を認めてしまうと、その基準内なら時間外労働可能と受け止められ、働き方改革が進まない懸念を感じる。学校の部活動、学校外での活動と役割分担するべきではないか。
- ・時間外勤務の活動は、部活動なのか、部活動外なのか？

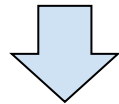
### 【懸念事項】

- ・学校管理下の活動、担うものは兼職の教員が多い状況が続くと、教員の負担軽減が本当に進むのか？

具体的には・・・

- ・担える方がいなくなった場合、学校の責任で、担える方を探すことにならないか？
- ・児童生徒数の減少、担える方がいなくなった場合、在籍児童生徒がいても廃部できるのか？

※部活動への共通理解が進めば、解消されるのか？

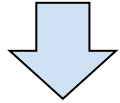


- ・「持続可能な部活動と教員の負担軽減の両立」を目指して議論を重ねているが、真に持続可能なものとするためには、広く、学校関係者以外の方も携われる仕組みにする必要があるのではないかと。また、最終的には、学校管理下の活動でなくなっても、部活動と同程度の効果が得られる活動になれば問題ないのではないかと？

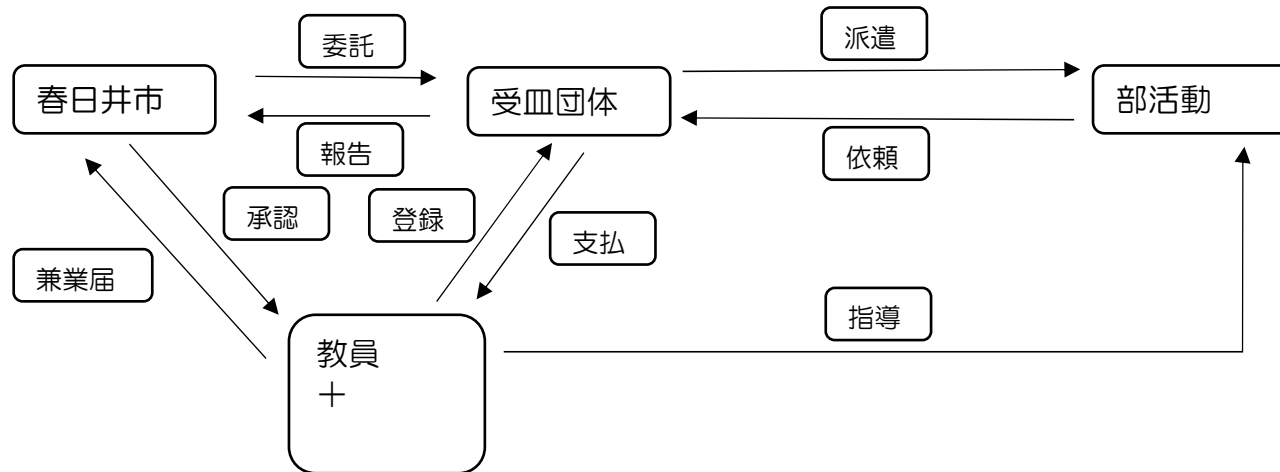
## 検討事項① 「教員の活用について」

### 【合同部活動の報告より】

- 地域の方からの協力や地元小学校の先生の参加が得られ、指導者も複数集まることで充実した活動ができ、それによって平日部活動も盛り上がるという相乗効果で、これまで技術的に遅れていた学校がどんどん追いついてくるといった効果も実感している



- 協力してくれた地域の方は、部活動だから協力してくれたのか？
- 将来的には、地域の方が主要な担い手になる可能性はあるのか？



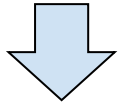
### 【懸念事項】

- 受皿団体は、誰が担うのか、誰が作るのか？
  - 人材派遣、人材バンクの設立
  - スポーツふれあい財団、スポーツ協会等、既存団体との連携、但し、各団体とも高齢化等の課題有
- 部活動に携わりたい教員のモチベーションは、保てるのか？

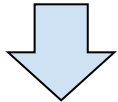
## 検討事項② 「情報共有・理解促進・合意形成について」

## 【第2回検討会内での議論より】

- 直接話をして初めて伝わるものという実感がある
- 多くの方に伝える機会は作れておらず、課題である
- 情報の伝わり方が不足している。PTAを有効に活用すべき



- 機会を作れていないのは、方針が決まっていないからなのか、物理的に集まるのが困難なのか？
- 直接話をして伝わる、一方、PTAの負担軽減が言われる中、どのような事が可能なのか？
  - 単P会長会を毎月開催するのか？



- 具体的に、どのようにすれば、直接話して共通理解を深めることができるのか？